
うんちメンタル

鶴川葱一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うんちメンタル

【NZコード】

N1346D

【作者名】

鶴川葱一

【あらすじ】
迫り来る決勝戦。緊張と鬪志の中、主人公が創り出す「うんち」を見
よ。

うんちが飛んでくる。道行く人々の間を縫つよづではなく、上空を飛んでくる。

臭いはうんちのそれだとはつきり分かる程の強さだが、すぐ傍にある感じはまだしない。遠くから、飛んできている。

臭いを嗅ごうと強く息を吸うと、まるで僕とうんちを繋ぐ糸を鼻から吸い込んでいるような感じがする。分かっている。うんちが近付いてくるのは、分かっている。

僕は、うんちを待っている。いや、来ないほうがいいのかもしない。けれども、来る。そして、今の気持ちのままなら、うんちが来ても大丈夫だと思える。意識を、集中する。

アナウンスが鳴り、僕の名前が呼ばれる。僕はアップを脱ぎ、テニスシユーズの紐をしっかりと締めてから、コートへと歩き出す。たくさんの人を避けながら進むうち、ラケットを握る手の平から汗が出てきた。舞い上がっているのか、頭がうまく働かない。人ごみを避ける動作が不自然になつた。できるだけゆっくりと息を吸う。だと土の混ざった匂いがする。

うんちは、どこだ。落ち着け。もうすぐ始まる。あるんだ。飛んできている。茶色い物を想像しろ。うんちだ。うんちが、空を飛んでいる。もううんちからは僕が見えていいかもしれない。臭いを嗅げ。よし、ある。臭いがする。うんち、うんちうんちうんち うんちよ、ずっとやっている。僕の頭の片隅に。

「コートを囲む観客の数は、昨日の準決勝の三倍はいた。相手選手は既にコートの中で待っている。もうここからは、一度も失敗はできない。僕は金網の扉を開け、コートの中へ入った。あとは主審が来たら、始まる。気を抜くと肩が上がり、体がびくびくと震えだし

そうだったが、僕はただ懸命に頭の中でもんちを思い描いていた。大会本部のある方向から、スコア表とボールを持った主審がやってきた。うんちは僕のほぼ真上まで来ている。相手選手がコートの中央へと歩き出した。主審がコートへ入る。僕はラケットを握る力を緩め、ネットと相手選手を漠然と見据えながら、コートの中央にうんちを落とした。よし。試合が、始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1346d/>

うんちメンタル

2010年12月12日14時47分発行